

おはようございます。私はグエン バン クァン と申します。ベトナムから参りました。スピーチを始めさせていただきます。

1975年4月30日、午前11時32分にベトナム戦争の終戦を告げるラジオ放送が流れ、100年以上の戦いを経て、ようやくベトナム人は自国の独立・自由を手に入れました。しかし、その独立の代償は計り知れないほど残酷でした。およそ400万のベトナム人、7万5千のフランス人、6千のアメリカ人の尊い命は戦争と運命を共にしました。

戦争を経験していない私にとって、戦争というのは遠い世界の話です。8歳の頃、戦争で両親を失った父の話から想像する戦争は水田を埋め尽くす死体、静寂な夜を切り裂けるような敵機の襲来、正に、地獄でした。しかし、そう思ったのは、私だけではなくアメリカ人もそうなんです。ベトナム戦争から生きて帰ったアメリカ軍人はこう言いました。「私は、この世には2つの地獄があると信じている。1つ目は死んだ後の地獄、2つ目はベトナムだ」と。もし、その軍人のそばに私がいたら、こう言うはずです。「地獄はあんた達が起こした戦争だ。ベトナムは地獄なんかじゃない、ベトナムは綺麗な国なんだ」と。

ところが、戦争の螺旋は未だに終わらない。戦争の教訓を無視し、戦争を起こそうとしている人達さえいます。それで、その螺旋に終止符を打つためには、異文化の相互理解という道に他ならないと、私は考えています。しかし、どうすれば異文化の相互理解が成り立つのですか？非常に簡単です。自分が思った通りに存分に胸の中をさらけ出して語り合えばいいです。それができれば、年代関係なく、国籍関係なく相互理解がしっかり(きっちり)と成り立ちます。具体的に、国際性に富む横浜国立大学の学生として、話し合い、スピーチ大会、などの国際交流活動に積極的に参加して頂きたいと思います。皆さんが今やっていることは未来の世界の平和に繋がると、私は信じています。

最後に会場の皆さんに質問します。スライドに出た5人、いや、6人にします。この6人が横浜国立大学の学生で、昼休みの時、留学生センターに集まって食事をしたり、話し合ったりするとしたら、今の世界がどうなっているのか想像してみてください。きっと、今のように戦争の無い、笑顔で溢れる世界となっているに違いありません。もし、機会に恵まれたら、私はその世界のどこかで皆さんとまた会いたいと思います。

以上私の発表でした。ご清聴ありがとうございます。